

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	建物火災において、消火活動中に隊員が足部に熱傷を負った事例
3. 体験した事例の中心的要素	隣接建物への延焼防止を活動の主眼とし、消火活動を行っていたが、風向や輻射熱の影響等危険要因の把握が十分でなかった。
4. 体験した事例の原因・理由	活動時の風向や、輻射熱に対する注意を怠り、出火建物に接近しすぎたことが原因と考える。

【体験した事例の直接的な原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	状況判断に問題があった。
-------------------------	---------------------

【体験した事例について】

1. 発生日時	平成26年5月9日 午後2時頃
2. 発生した当時の天候	晴れ
3. 発生した活動現場	屋外：出火建物南東の道路上
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	軽傷の怪我
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	火傷・熱傷
7. 事例体験時の活動	火災現場活動中期、[木造建物]
8. （7の活動中）どのような作業中に発生したか	放水活動
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[24]歳、勤続年数[1]年、現場経験年数[半] 年、階級[消防士] 同様の活動 [過去に1,2回程]、任務 [隊員]
○当事者B	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[] 年、階級[] 同様の活動 [], 任務 []
○当事者C	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[] 年、階級[] 同様の活動 [], 任務 []
○その他(当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生時の経過。

	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	A	隊長以下3名でポンプ車に乗車し、水槽付きポンプ車隊とともに出動する。	
経過2	A	現場到着し、防火水槽に水利部署する。	
経過3	A	現場直近に部署した水槽付きタンク車に、中継送水体制をとる。	
経過4	A	ポンプ車から一線延長し、延焼防止のため放水活動を行う。活動中足部に熱感があった。	
経過5	A	鎮火のため放水を中止する。	
経過6	A	資機材等を撤収し、隊長以下3名で現場から引き揚げる。	
経過7	A	帰署し、資機材の整理等を行う。	
経過8	A	足部に継続する鈍痛があったため、確認すると、左足背部と右踵部に熱傷による水疱があった。	
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

【その事例発生時の状況について】

○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか？

○ヒヤリハットの場合 : ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険情報を把握、予見できなかった。避難退避がうまくいかなかった。他隊(員)との連携活動がうまくいかなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	はい
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

一つの事象に集中するあまり、周囲の状況が見えなくなってしまうことになるので、常に周囲の安全確認を行い、活動危険を排除するよう周知した。消火活動における筒先配備は、経験の浅い隊員と、中堅以上の経験を有する隊員を配置する。

○装備・資機材の対策について

ヘルメットや防火服等は必ず正しい状態で着用し、各種資機材も含め日頃から点検を通じて破損や故障がないか、それぞれの性能を発揮できる状態にあるか確認を行う。

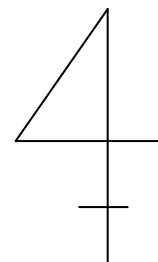
○活動環境の対策について

今回の事例では、輻射熱が及ぼす影響や、風向の変化等を正確に認識できなかったことが事故発生の原因であると考え、今後は複数の隊員による状況確認と情報共有を密にし、状況に即した判断を行う必要がある。

○指揮・情報伝達の対策について

隊員間の情報共有について、わずかな状況変化や、体調の変化等についても指揮者あるいは上司等に報告するよう周知した。

被災状況図



ポンプ車

火

隊員

